

6 人材育成／アセット活用

社会を支えるICTインフラを担える人材の育成／ インフラデザイン部が所有するアセットを活用したビジネスの拡大

NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）インフラデザイン部の重点施策の1つ“Resource Management”は、人材育成や各種設備などのリソースを有効活用するための施策だ。育成方針とさまざまな取り組みから一部を本稿で紹介する。

コミュニケーションの活性化と 一体化したチームを作り出す ことのできる人材の育成

インフラデザイン部は「オペレーショナル・エクセレンス」（本特集“1インタビュー”参照）の実現に向け、コミュニケーションの活性化を図り、一体化したチームを作り出すことのできる人材の育成、組織風土の醸成を進めている。

組織長との対話会やビジョン浸透に向けたワークショップの開催、若手が企画しさまざまなプロが語る「達人道場」などの施策を通じ、新人が社会人として立ち上がり、中堅が積極的なチャレンジを行い、ベテランがノウハウを伝承していく場として、それぞれが成長できるフィールドの

実現を目指している。

さらにその営みを組織に閉じることなく、基盤レイヤーに関わるメンバー全体にも展開しており、相互の人事交流も積極的に行っている。

インフラデザイン部が所有する アセットを活用したビジネスの拡大

NTT Comは使われなくなった、または余裕のある通信ビルやケーブルなどのアセットを外部に貸し出し収益化している。加えて最近では自社の“NTT Communications OPEN INNOVATION PROGRAM”を通じて公募したビジネスプランを元に、アセットを活用した新規事業にも取り組んでいる。

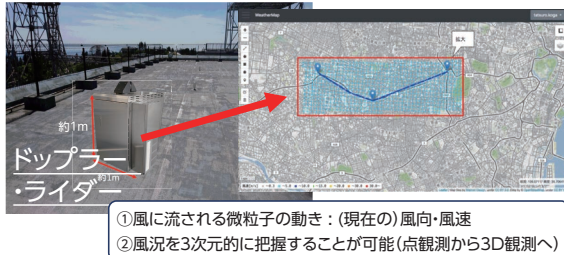


NTTコミュニケーションズ株式会社
プラットフォームサービス本部
インフラデザイン部 企画部門
（左から）主査 東口 祐子氏、主査 平川 裕樹氏
安井 一哉氏

その1つが京都大学発スタートアップのメトロウェザー株式会社と進めている事業だ。鉄塔や通信ビルの屋上にセンサーを設置し、風向や風速などドローンを飛行させる際に役立つ風況データを収集・提供するほか、風況の予測も行う。

もう1つは株式会社フォーモアと進めている「鉄塔をコンテンツとした知的財産ビジネスの創出」だ。鉄塔に親しみを持ってもらうためキャラクター化やストーリー作りに取り組むなど、NTT Com単体では発案自体が難しかった取り組みと言える。

【メトロウェザー株式会社との協業】
ドップラー・ライダーにて風況を観測し、ドローン等のビジネスへ活用



【株式会社フォーモアとの協業】
アプリ上で鉄塔をテーマとしたインタラクティブストーリー展開

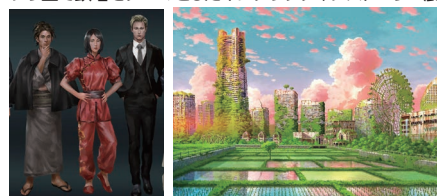


図1 Open Innovation Program